

尚志の大砲、NPB視野にトライアウト受験

村上

BCCリーグ挑戦



プロ野球独立リーグ・ルートインBCリーグの合同トライアウトは、15日から2日間、群馬県の上武グラウンドで行われる。県内からは尚志の左の長距離砲・村上昂暉(3年)が受験する。9月にプロ志望届を提出した村上は、先月23日のプロ野球ドラフト会議は指名はなかったものの、将来的なNPB入りを掲げてBCリーグ入りを目指す。

夏の大会を終えてもまだ丸刈り。トライアウトへ気合十分の村上。力強い打球音が夜のグラウンドに響く

村上昂暉(むらかみ・たかあき) 1997年(平9)11月29日、郡山市生まれの17歳。行健小5年時に行健スポーツ少年団でソフトボールを始め、行健中で軟式野球を始める。特技はプロ野球選手物の打撃の物まね。1身78、90キロ。右投げ左打ち。



ドラフトは残念
鋭いスイングとともに、「グシャッ」と硬球がつぶれたような音が尚志グラウンドに響く。90キロある体重を球に全部乗せるスイングこそ、村上の打撃の真骨頂。理想は王貞治氏の一本足打法だ。「王さんのように軸足でためをつくって、スイングの時に全体重を乗せます。ゆくゆくは一本足打法でいきたい」。そう語る17歳は動画再生サイト「YouTube」で往年の世界の本塁打王

の打撃を繰り返し見ながら、自身のフォームに改良を加えて続けている。入学直後の練習で、村上の打撃はすぐに福地大祐監督(34)の目に留まった。「ここまで振れるヤツはいない」。現役時代に都市対抗野球への出場経験がある福地監督にとっても、無名の新生のスイングは衝撃的だった。

試合では結果度外視で、全球フルスイングが命じられた。結果が出ないが弱気な面が出る自分が自信を持たせようと、福地監督から何度も激しい激励を受けた。そして、迎えた最後の夏。大会屈指の強打者として臨んだが、1回戦敗退に終わった。無安打に終わった村上には他のライオンが泣きやんでも泣き続けた。

王さんばり一本足打法研究

「自信を持たせてくれた監督の期待に応えられなかったのが悔しかった。プロに行ってこの悔しさを晴らしたい」とあえて厳しい道を選んだ。期待をしてくれた福地監督に恩返ししたい。プロ志望届提出に迷いはなかった。

9月に練習参加した信濃グランセローズ(長野)では、フリー打撃で柵越えを披露。「打撃は通用した」とプロでも通用する手応えを感じている。弱気だった頃の自分とはアテない。「スイングでもアテしたい。本当に自分との勝負だと思っています」。BCリーグ入り、そしてその先のNPB入りへ。まずはトライアウトの舞台で、村上は夢を乗せたアーチをかける。(池田 翔太郎)

俊足も武器
外野手で勝負
○:体重90キロある村上だが、実は足も速い。10月の時点で50メートルは6秒2をマーク。「意外と速いね」とよく言われま

4番後継は鈴木
○:新チームで村上の後を継ぎ4番に座るのが鈴木友章捕手(3年)写真だ。前任者とは違い長距離打者ではないが、村上が「声や気持ち」を常に前に出している」と評する、気迫のこもったプレーでチームをけん引する。秋の新人大会は県中支部予選で敗退したが「冬は一日一日を大切に濃い練習をしたい」と来夏の甲子園を目指す。

打撃を行う。1次を通過した選手だけが受験できる2日間は、シート打撃などの実戦テストを行う。最終合格者は、28日に実施予定のドラフト会議で通知される。